

会社概要

2025年11月

A decorative graphic consisting of multiple overlapping, wavy lines in shades of gray, flowing from the left side of the page towards the right, positioned below the company name and above the date.

会社概要

(証券コード：7747 東証プライム、名証プレミア)

社名	朝日インテック株式会社
本社	愛知県瀬戸市暁町3番地100
代表者	代表取締役社長 宮田 憲次
設立	1976年7月8日（現在 第50期目）
事業内容	医療機器 及び 極細ステンレスワイヤーロープ並びに端末加工品等の開発・製造・販売
資本金	18,860百万円
従業員数	1,207名（単体） 9,570名（連結）
関係会社	連結子会社：20社 非連結子会社：5社
開発拠点	日本・タイ・米国
製造拠点	タイ・ベトナム・フィリピン・中国 ※
販売拠点	日本・米国・オランダ・フランス・ドイツ・イタリア・ロシア・中国・韓国・台湾・香港・シンガポール・タイ・インド・UAE・ブラジル・サウジアラビア

※ 中国工場は2030年12月頃稼働開始予定

<2025年9月末現在>

グローバルネットワーク – 開発/生産（日本と海外の棲み分け）



グローバル本社 R&Dセンター
（製品開発）



【日本】研究開発/試作



タイ: ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD.



中国:朝日英达医疗器械（南宁）有限公司

※2030年12月頃に稼働開始予定



フィリピン:
TOYOFLEX CEBU CORPORATION



ベトナム: ASAHI INTECC HANOI CO., LTD.

生産4拠点

【海外】生産拠点

日本は研究開発・試作に特化し、生産（量産）は全て海外工場にて実施

当社の販売拠点（ご参考）

国内10拠点



グローバル本社・R&Dセンター

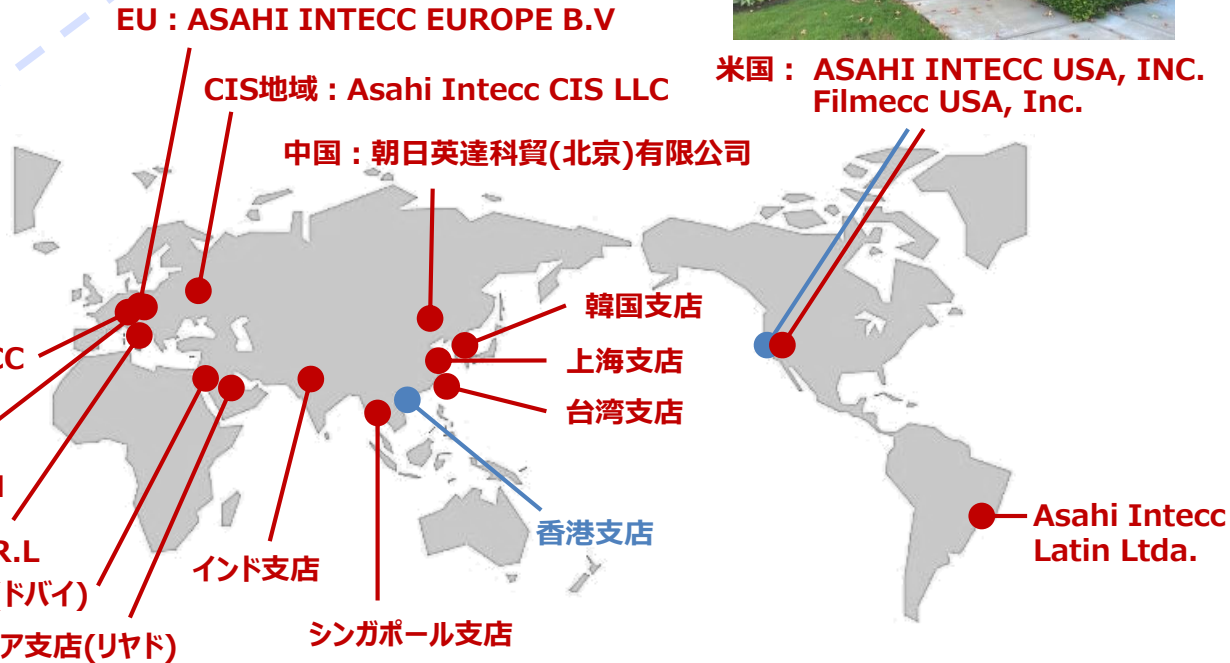


海外17拠点

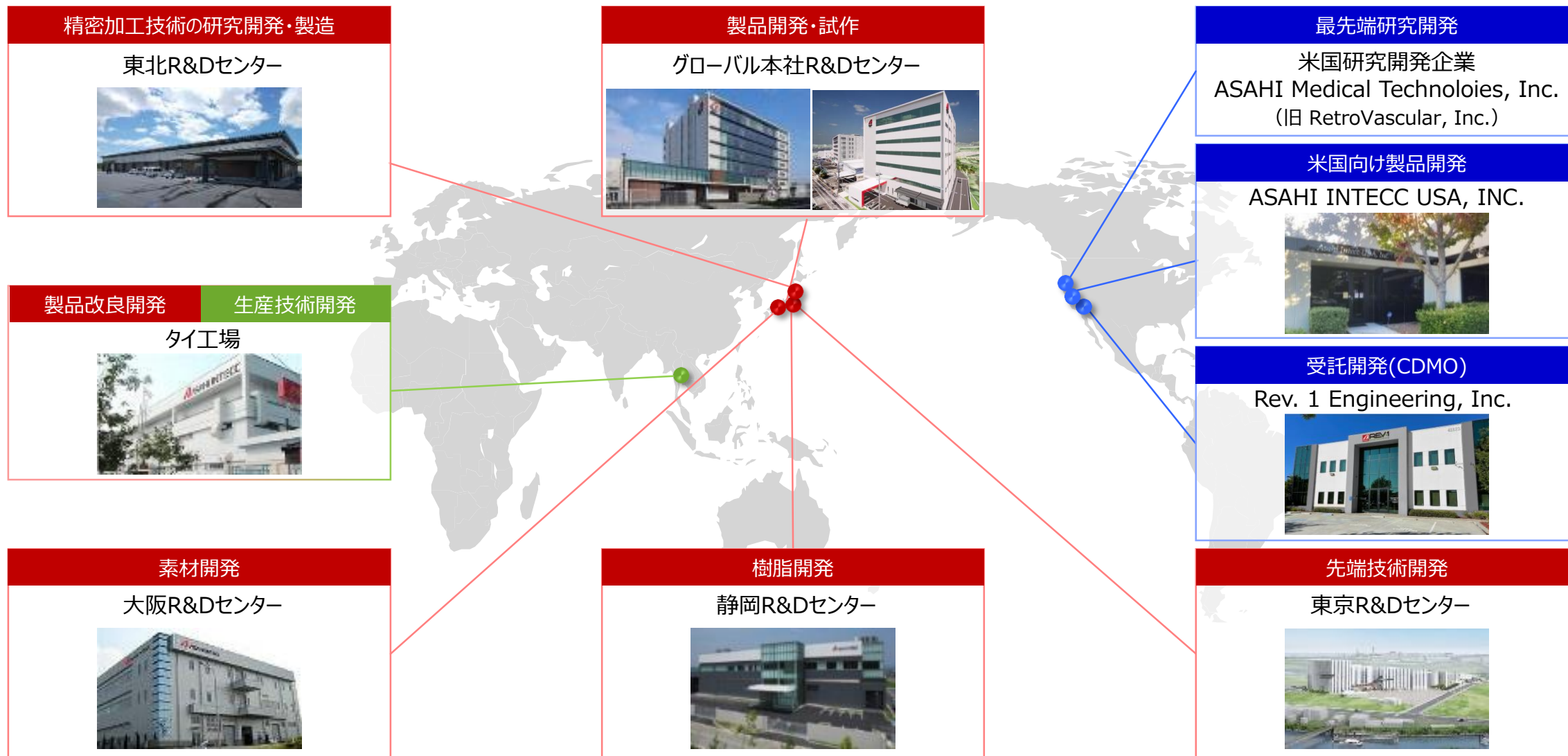
● メディカル ● デバイス



米国：ASAHI INTECC USA, INC. Filmecc USA, Inc.



グローバル展開に最適な研究開発体制の構築（ご参考）



事業分野・事業セグメント

■ 2025年6月期

売上高 120,025百万円

営業利益 30,079百万円

メディカル事業 (自社ブランド製品・OEM供給品)



医療機器分野 (約96%)



産業機器分野 (約 4%)



デバイス事業 (医療部材・産業部材)

デバイス事業（産業部材）の主要製品群

- 極細ステンレスワイヤーロープ
(ロープ径2mm以下)の開発・製造・販売
- 使用される市場
 - ・ ロープ……自動車関連、建築関連、漁業関連
 - ・ 端末加工品……OA機器関連、ベビーカー、機械、アクセサリ、遊技機
 - ・ チャージワイヤー……OA機器関連、空気清浄機



最先端機器から家庭用品まで幅広い用途

グローブライド社様 鮎用釣糸



排煙装置



ゴルフシューズのワイヤー



コピー機 駆動ワイヤー



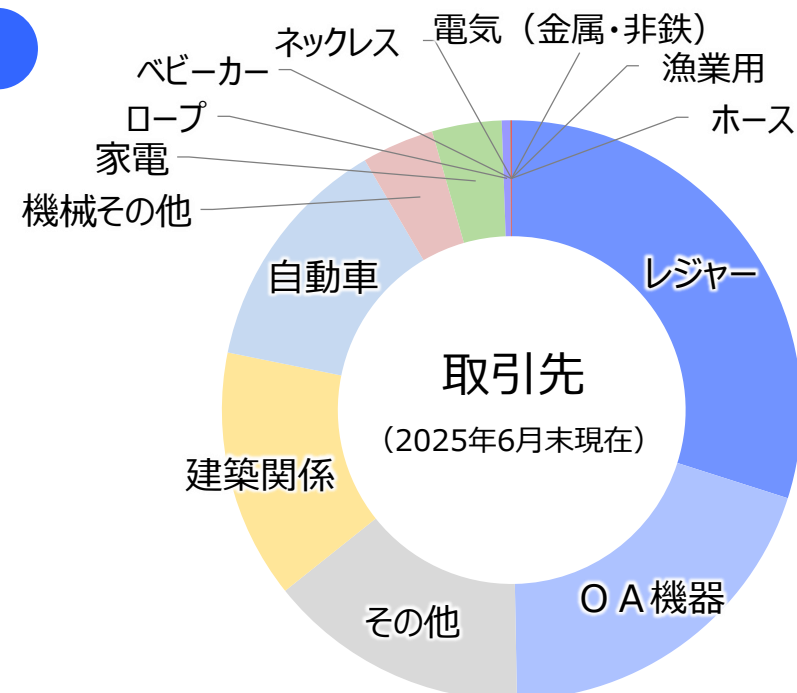
フィルター掃除機能付エアコン



ベビーカー



アクセルワイヤー



メディカル事業（OEM供給品） デバイス事業（医療部材） 主要製品群

■ メディカル事業（OEM供給品）

国内外の医療機器メーカーに
OEM製品を開発・生産し供給



FFR（冠血流予備量比）
ガイドワイヤー
（Boston Scientific様）



ROTAワイヤー
（Boston Scientific様）

■ デバイス事業（医療部材）

中腔構造のケーブルチューブ、
ステンスロープ等の医療部材を提供



ワイヤーロープ・チューブ
（内視鏡処置具の部材）



ACT ONE

メディカル事業の主要製品群

治療用カテーテルシステム

循環器系

- **PCIガイドワイヤー**
- PCIガイディングカテーテル
- PCIバルーンカテーテル
- 貫通カテーテル

末梢血管系・腹部血管系・脳血管系

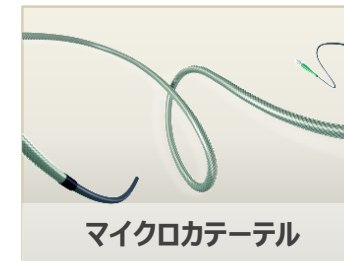
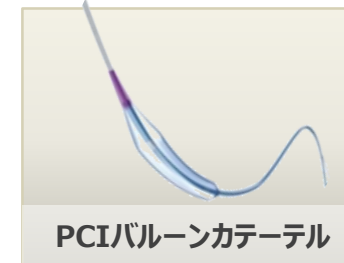
- ペリフェラルガイドワイヤー
- IVRガイドワイヤー
- 脳血管系ガイドワイヤー

検査用カテーテルシステム

- 血管造影用ガイドワイヤー
- 血管造影用カテーテル

OEM供給品

- 主に循環器系以外のカテーテル関連製品



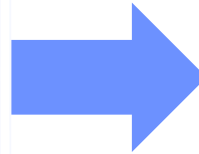
弊社の売上高の**48.2%**（2025年6月期）を占める主力製品

PCI治療（経皮的冠動脈形成術）とは -1

- 冠動脈疾患（狭心症・心筋梗塞等）の治療法
- 狭窄部を広げて血流を確保
- 患者の精神的・肉体的負担を最小限に抑える為に、開腹・開胸する事なく、太腿や手首の血管を通じて治療を行う

外科的治療

バイパス手術



内科的治療

低侵襲治療（PCI治療）



PCI治療（経皮的冠動脈形成術）とは -2

PCI治療に不可欠な三製品

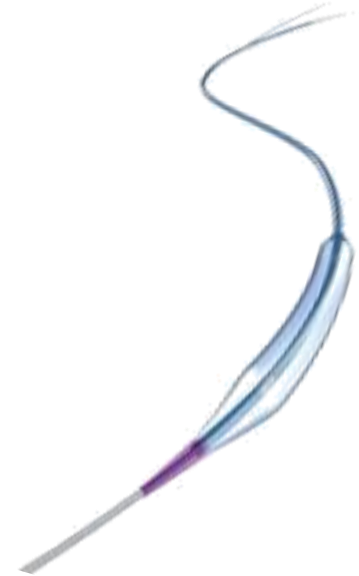
ガイドングカテーテル



ガイドワイヤー



バルーンカテーテル

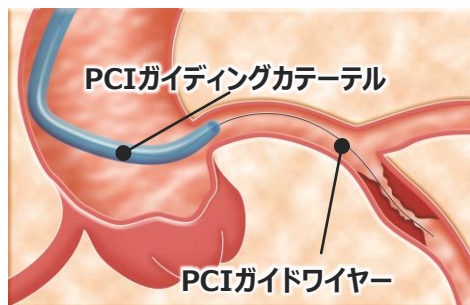


PCI治療（経皮的冠動脈形成術）とは -3

PCI治療を成功させるためには、PCIガイドワイヤーが患部に到達しなければならない

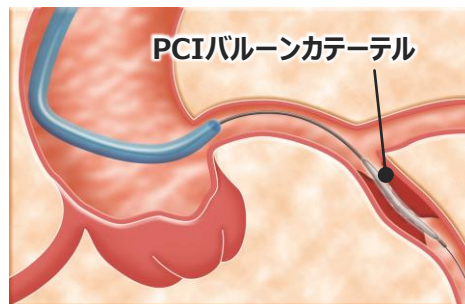
① PCIガイドワイヤー通過

PCIガイディングカテーテルと呼ばれる細い管を血管に挿入し、その中にPCIガイドワイヤーを通します。



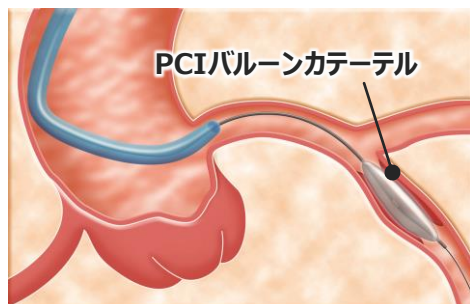
② PCIバルーンカテーテル挿入

PCIガイドワイヤーに沿って、PCIバルーンカテーテルを血管の狭くなっている部分まで進めます。



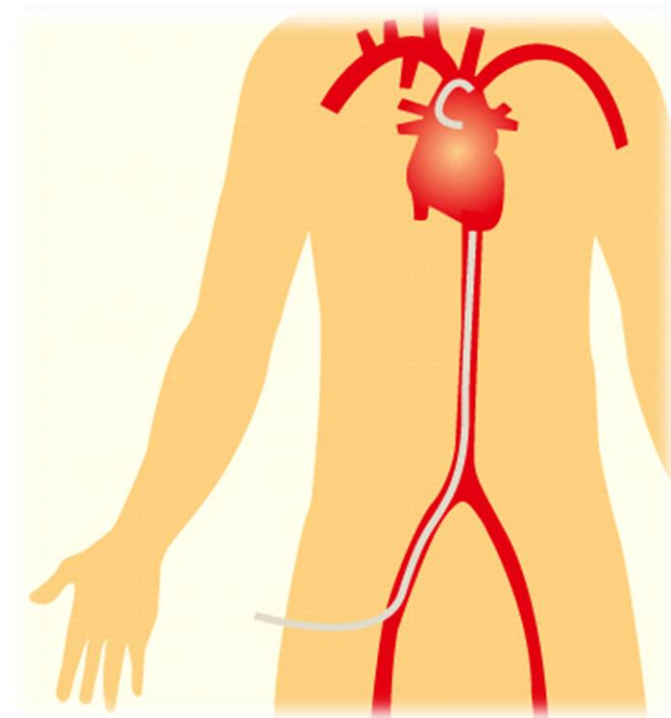
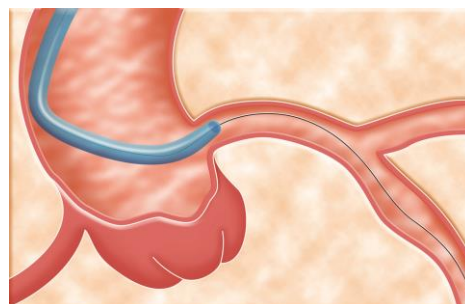
③ PCIバルーンカテーテル拡張

バルーン（風船）をふくらませ、内側から血管を押し広げます。



④ PCIバルーンカテーテル抜去

狭くなっていた部分が広げられ、血液の流れがよくなります。

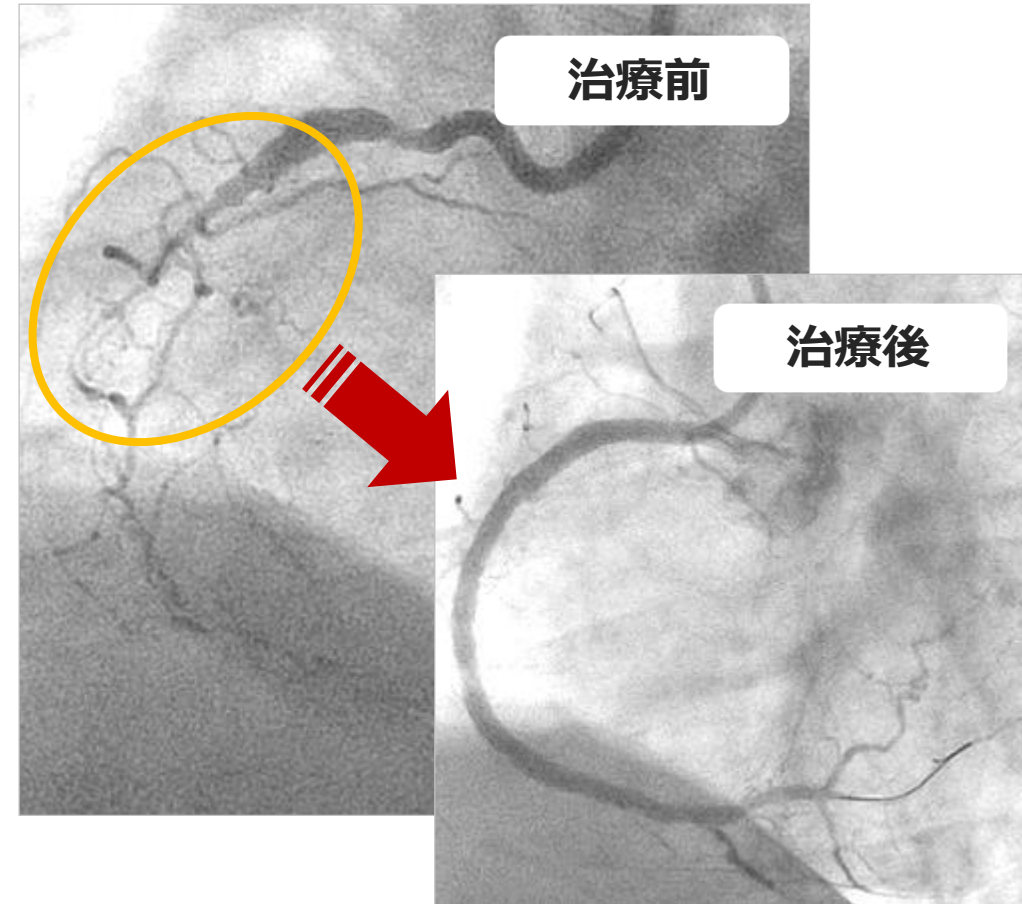


PCI（経皮的冠動脈形成術）とは -4

比較的簡単な病変



難易度の高い病変



技術の優位性 「4つのコアテクノロジー」

優れた回転追従性（トルク性）



先端の柔軟性（安全な操作）



ドクターの「指先の微妙な動き」を「先端に忠実に伝える」ことが可能

競争力の源泉：4つのコアテクノロジー

強度・線径コントロール



回転追従性



伸線技術

ワイヤー
フォーミング
技術

ミクロンレベルの成形

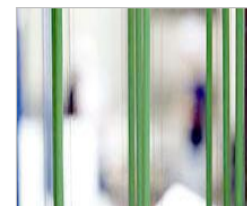


素材から製品までの
一貫生産体制

トルク技術

樹脂
コーティング
技術

極薄膜コーティング

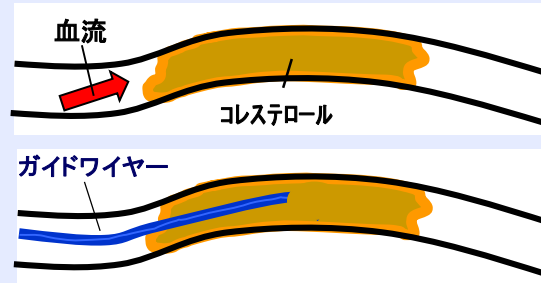


当社のフラッグシップ CTO治療

CTO領域におけるPCI治療の実現

■ CTO（慢性完全閉塞）とは？

- 石灰化した硬い病変
- 完全に血管が詰まった状態



従来は外科手術の領域

ガイドワイヤーを輸入に頼っていた時代、日本のKOLドクターから
CTOを治療できるワイヤーの開発を大手海外メーカーに打診したが実現しなかった

※KOL(Key Opinion Leader)・・・医療業界で多方面に影響を持つ医師のことを指します

CTOを治療できるPCIガイドワイヤーを開発（1995年）

低侵襲治療によるCTO治療を飛躍的に拡大

【心臓疾患レベル】

健常人

リスク保持者

生活習慣病

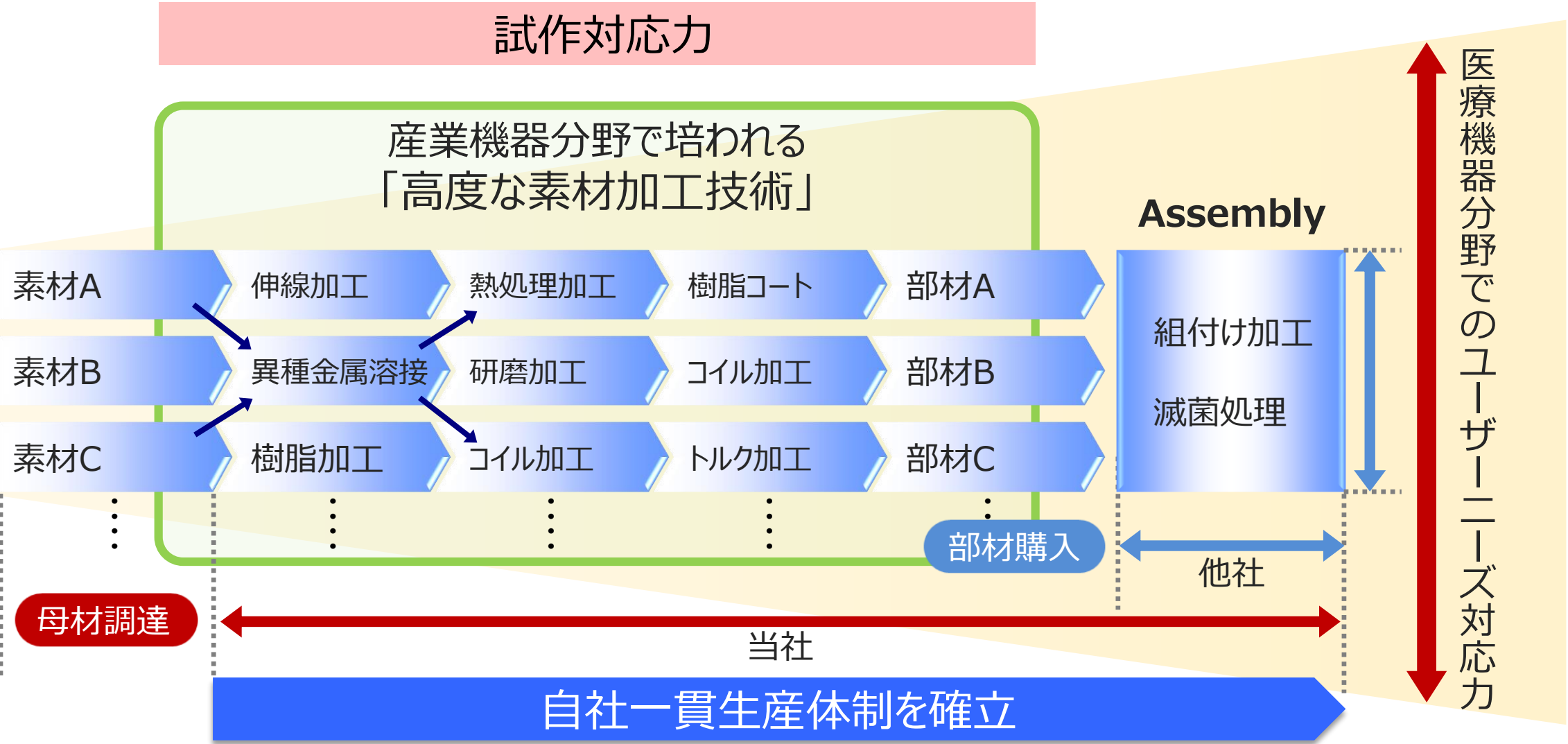
心臓血管閉塞

CTO
(慢性完全閉塞)

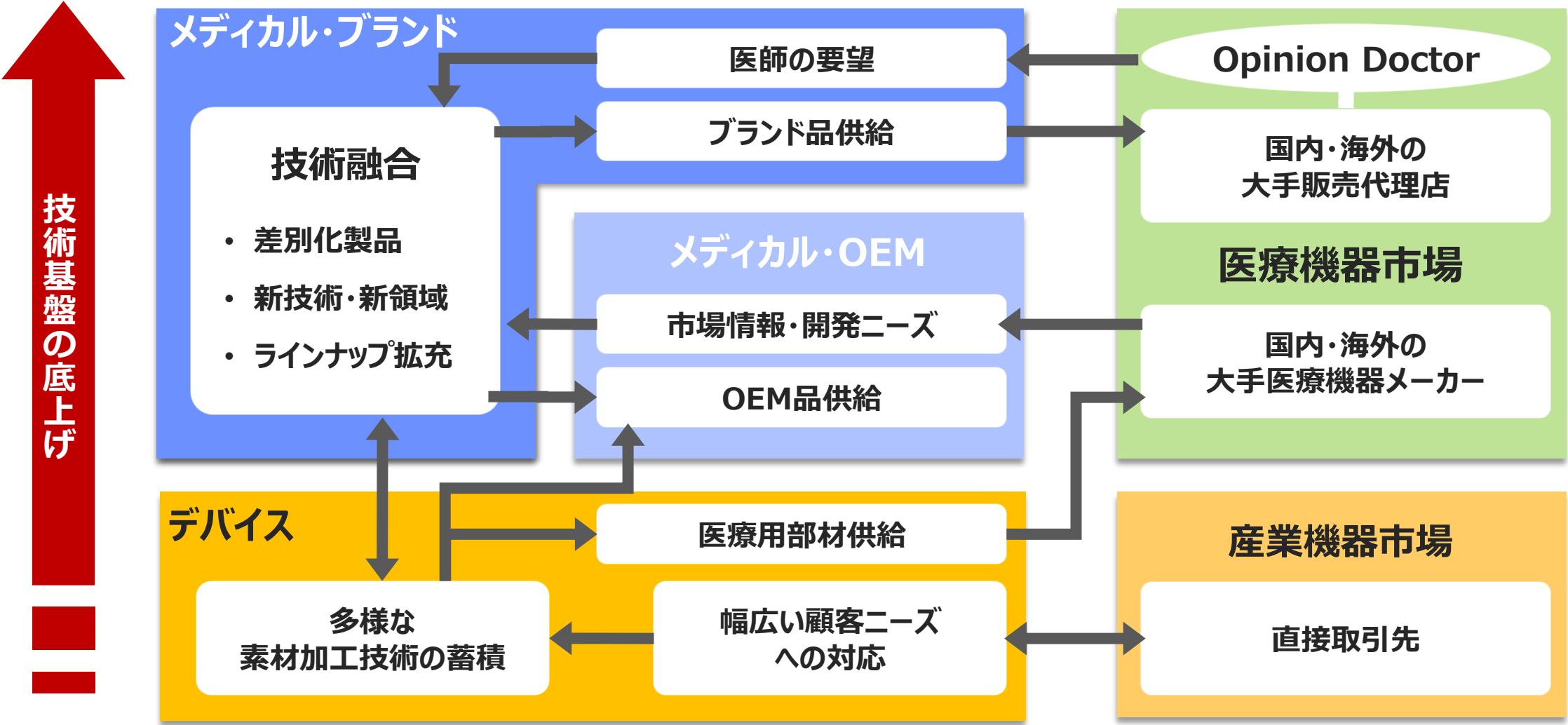
潜在患者

当社の強みと特徴

医療機器の競争力 = 素材を扱う高度な技術



当社の強みと特徴
事業構造のメリット（融合・複合・循環）



本資料における注記事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

朝日インテック株式会社 経営戦略室

TEL 0561-56-1851 (Direct)

URL <https://www.asahi-intecc.co.jp>